

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

巻頭のことば

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 昌彦 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学人権教育思想研究所
URL	https://kansaigaidai.repo.nii.ac.jp/records/5752

巻頭のことば

人権教育思想研究所所長 加藤 昌彦

ある大学4年生が就職内定を受けた。しかし2学期に父親がリストラにあり、学費が払えない。立ち往生したが、内定企業が来てほしいので中退でもかまわない、と応えてくれた。しかし、この学生は大学中退という学歴で世の中をわたっていかねばならない。日本の学生とその家庭の経済力の関係を見るために2006年に東京大学大学政策研究センターが調査を行った。高校生の成績を5ランクに分けて、最上のランクの生徒のうち、大学進学できたのは64%であった。女子の場合はさらに低く60%であった。

能力によってではなく、家庭の貧困のために進学できない。人生のスタートで大きな壁に阻まれている。かつて40年前、日本の国公立の大学の授業料は無償に近く低いものであった。多くの貧困層の青年がアルバイトをしながらでも学ぶことができた。また戦前では貧困家庭の青年は、師範・高等師範・文理科大学という、授業料も無償で生活保障のあるコースを用意していた。現在、大学生への教育ローンは大きな額を借り入れることができるようになったが、借財を抱えての社会人生活である。医学教育では昔も今も、貧困層の子どもが進学するにはさらに高い壁がある。

1966年に国連で採択され、1979年に日本も批准した国際人権規約では「高等教育は、すべての適当な方法により、特に、無償教育の漸進的な導入により、能力に応じ、すべての者に対して均等に機会が与えられるものとする。」と謳っている。しかし、この条項について日本の政府はまだ保留のままである。スウェーデンなど北欧では高等教育は無償で、失業中の青年がレベラアップのために教育を受けるとその経済的保障がされている。

能力も意欲もある青年の夢を押しつぶしてはならない。構造的に社会がもっている活力を失わせてはいけない。日本の政府や各大学がそれぞれの大小の努力を積み重ねていかねばならない。